

機 関 名	東京大学		
拠点のプログラム名称	都市空間の持続再生学の展開		
中核となる専攻等名	工学系研究科都市工学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 藤野 陽三 教授		外 18 名
<p>〔拠点形成の目的〕</p> <p>持続可能な文明社会を支える空間的実体としての「持続可能な都市空間」を形成・再生することは21世紀の人類最大の課題の一つである。本拠点は、21世紀COE「都市空間の持続再生学の創出」によって創設された国際的教育研究拠点を基礎に、持続可能な都市空間の形成・再生を導く新たな統合的知の体系「都市空間の持続再生学」を展開、深化させる。同時に、各国の教育研究機関・自治体等との国際的共同研究ネットワークを全地球レベルに拡充し、世界最高水準の教育研究環境において、国際共同研究等への主体的参画と分野横断的研究指導体制の下で、若手研究者が研究活動を遂行する。これらを通じ、特定分野に関し高度な専門性を有すると同時に、都市空間の持続再生に関わる広汎な学術分野と多様な文化に関する理解力と調整統合能力を修得した国際的に活躍可能な研究者・専門家を育成し、もって世界の持続可能な都市の形成・再生に貢献することを目的とする。</p> <p>〔拠点形成計画及び進捗状況の概要〕</p> <p>21世紀COEプログラム「都市空間の持続再生学の創出」により実績を挙げた（事後評価は5段階評価の最高位）拠点の体制と成果を活かし、関係3専攻（社会基盤学・建築学・都市工学）の緊密な連携により、都市空間の持続再生に関する統合的な知の体系化を国際的共同研究等を通じて行うと同時に、こうした研究への参画と分野横断的な研究指導を通じて次代を担う若手研究者・専門家の育成を行う。</p> <p>(1) 都市持続再生研究センターの設置：</p> <p>既設の国際都市再生研究センターを改組拡充し、国際的に著名な韓国の研究者を特任教授として招聘し、将来性の高い若手研究者を特任助教等（15名うち外国人3名）として配置した。これら特任教員が拠点活動の中心となって関係教員・博士課程学生との共同研究を進め、センターを核とする分野横断的な研究指導体制による若手研究者の育成が進んでいる。また当該分野に関し学識経験を有する学外の研究者6名（うち外国人4名）による国際アドバイザー・ボードを設置して外部評価を行っている。その結果は今後の拠点形成活動の企画調整・評価推進に反映させる。</p> <p>(2) 分野横断的の先端領域研究の展開：</p> <p>&lt;環境マネジメント/ストックマネジメント/社会情報マネジメント/統合計画デザイン&gt;の4基幹研究部会に加え、実際の都市持続再生の課題に取り組む3つの重点戦略研究部会&lt;エコ・アーバンスペース/都市の脆弱性研究/都市空間文化再生&gt;を設置した。これら部会では関係教員や学生が協働し、都江堰、フエ、ダッカ、東京、高知など、具体的な都市を対象とした数多くの分野横断的共同研究を進めている。</p> <p>(3) 国際共同研究等の実践を通じた国際研究ネットワークの拡大：</p> <p>ベトナム国立大、バングラディッシュ工科大、ラフバラ大（英国）との研究協定締結、パラオ共和国や大連理工大との連携など、国際共同研究をさらに展開し、21世紀COEにより確立された国際共同研究ネットワークの拡大を進めている。また、若手研究者の国内外での研究連携のため世界各都市の主要関係研究機関に36名のCOE海外フェロー（連携協力研究者）を任命配置した。また、事業期間の最終年度を目標に、世界の類似拠点と連携し、国際都市持続再生学会を創設する。</p> <p>(4) 知の体系化・公開・普及：</p> <p>都市持続再生学テキストブックシリーズの出版を進めており、現在までに9冊の英文テキストを発行した。また研究成果の公開と国際研究ネットワークの活性化のため、ウェブサイトや小冊子を通じた情報公開を進めている。また21COEの成果を受けて新設された社会人向け大学院教育プログラム「都市持続再生学コース」（修士課程）を拡充し、高度専門実務家養成型博士課程に発展させる。</p> <p>(5) 世界の各都市において都市空間の持続再生を推進・実践する若手研究者・専門家の育成：</p> <p>世界の都市空間の持続再生を実現するためには、多様な分野の専門家を主導調整統合するチームリーダーとして活躍できる人材を多数育成する必要がある。本拠点においては、上記の教育研究環境を基盤とし、具体的実践的国際的な共同研究への参画と、海外フェローを含む分野横断的研究指導体制の下での研究遂行、一連のcSUR講義（英語）の受講、国際共同設計スタジオ（大連・リスボン・東京）・国際サマースクールの受講等を通じ、特定分野について高度な専門能力を有するだけでなく、都市空間の持続再生に関わる広汎な学術分野と多様な文化に関し理解力と調整統合力を備え、さらには実践力を持つTプラス型人材の育成を推進してきた。</p>			

## (総括評価)

現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される。

## (コメント)

大学の将来構想と組織的な支援については、COEプログラム推進室を中心として、大学による支援体制が整えられており、これにより教育や研究における成果があがっている。更に、本事業終了後における拠点に対する大学としての支援体制が示されることが望まれる。

拠点形成全体については、国際的な視点から拠点を形成するための多様な試みと努力が払われている。特に、若手研究者の活躍が顕著に見られ、また、拠点の活動として出版、国際活動なども活発に展開していると評価できる。

人材育成面については、若手研究者の育成に多くの努力が払われており、これは将来において、研究者の供給という点で、国際的にも大きな役割を果たすと期待される。グローバルCOEプログラムの重要な目的の一つが国際的な活動の出来る優れた研究者を育成することにあることを考えれば、当該拠点はその目的の達成に大きな努力を払い、成果をあげつつあると高く評価できる。

研究活動面については、特に若手の研究活動が活発であり、国際的にも高い評価を受けている。また、21世紀COEプログラムからの継続活動として英文のテキストブックシリーズも出版されており、研究成果の公開も進められていると評価できる。

補助金の適切かつ効果的使用については、概ね妥当である。

留意事項への対応については、採択時の審査結果に対する対応は必ずしも十分ではなく、反論に終わっている点も見られるため、更なる検討が求められる。

今後の展望については、拠点形成に関しては概ね順調に推移するものと考えられる。ただし、持続再生学の学問体系が明確には見えておらず、従来の学術の組み合わせのみでの達成は困難と思われるため、このことについて検討されたい。